

## チ ョ ウ ト ン ボ

### *Rhyothemis fuliginosa*

種名



分類

昆虫綱トンボ目 トンボ科

俗称

翅の黒い模様がチョウのようであることと、チョウのようにヒラヒラと飛ぶことに由来している。また、若い個体が飛行機のように高いところを滑空飛翔することから「ヒコウキトンボ」とも呼ばれる。

形態的な特徴

体長 35mm 内外 (腹長 雄 22～26mm、雌 21～24mm、後翅長 33～38mm) で、雌雄ほぼ同じ大きさ。黒くて金属光沢のある幅広い翅を持ち、チョウのように舞うトンボである。翅端に透明部分がある個体もいて、翅の斑紋には個体差がある。体色は雌雄とも全身黒く、成熟の度合いによってもほとんど変わらない。幼虫の体長は 13～15mm (頭幅 5mm) ほどで、褐色地に濃色斑のあるヤゴ。

分布

本州、四国、九州に分布し、西南日本では比較的普通だが、関東以北とくに東北地方北部では産地が限られる。離島では淡路島、隠岐、杣島、五島列島の福江島、天草諸島、甌島列島、種子島などに分布する。

繁殖行動

成虫は6月から9月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、挺水植物の茎や葉の裏などに定位して羽化する。羽化後の未成熟個体は羽化水域近くの林に集まり、高木の樹冠の開けた空間をヒラヒラと舞うように飛び、ときには数十の群れが乱舞することもある。成熟した雄は、再び水辺に戻り縄張りを形成する。交尾をした雌は単独で挺水植物の際や沈水植物、浮遊植物などのある水面に連続打水産卵をする。

生息場所

おもに平地から丘陵地のヨシやマコモ、ガマなど草丈の高い挺水植物がよく繁茂した、腐植栄養型の池沼に生息する。しばしば海岸付近の汽水が入る沼沢にも生息する。幼虫は、挺水植物の根際や植物性沈積物の陰に潜んだり、水底のやわらかい泥に浅く潜って生活している。東北地方では産地が限られてまれであるが、西南日本ではよく見られる。しかし近年、本種の好む挺水植物の繁茂した池沼などが減少したことにより、全国的に生息地が減っている。

生息環境への配慮事項

本種が好んで生息するヨシやマコモ、ガマなどが繁茂する溜め池・沼などは、管理せず放置しておくとも漏水し、徐々に乾燥して水深が浅くなり草地化してしまう。したがって、本種の生息環境を維持するためには、適度に挺水植物が繁茂し、ヤゴが生息可能な水深が維持できるよう維持管理をする必要がある。

引用文献：[http://www.maff.go.jp/nouson/mizu\\_midori/menu/main.html](http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html)